

【第6回健康寿命をのぼそう！アワード

（介護予防・高齢者生活支援分野）とは？】

地域包括ケアシステムの構築に向け、地域の実情に応じて優れた取組を行っており、かつ、それが個人の主体的な取組の喚起に資するような取組を行っている「企業」「団体」「自治体」を表彰することで、地域における主体的な介護予防活動を奨励し、なお一層の振興を図ることを目的としている。

今回、「介護予防・高齢者生活支援分野」においては厚生労働大臣賞を4団体、老健局長賞を9団体が受賞している。

【打馬町内会の取組】

○キーワード

住民が主体的に介護予防に取り組む機運が醸成され、サロン活動、見守り活動の充実・継続への創意工夫がみられる。

○取り組んだ経緯

打馬町内会において、高齢者のみの世帯、高齢者の一人暮らしの世帯、認知症の方が増加しており、住民が公的な制度やサービスだけでは全て支えきれない状況があった。また、民生委員、在宅福祉アドバイザーだけでは足りず、民生委員を中心に、町内会全体での見守り活動に発展した。

打馬町内会では、男性で癌を患っている方がおり、「先行きもなく、何もおもしろくない」と話していたことから男性で何かおもしろい活動ができないかと男性サロンを始めたり、町内で認知症の方の徘徊が増加したことから認知症徘徊模擬訓練を実施したりした。

○事業の概要と特徴

地域住民が支え合い、主体的に福祉活動に参加し、安心して住み続けられる仕組みづくりのために、サロン活動や見守り活動を展開している。

サロン活動は、住民自身が得意としていること、できることについて講師として招くなど、役割をもってもらうことで高齢者の生きがいがいづくりにつながっており、対象者別に4種類のサロンを実施している。

①どんぐりサロン（H17年～）

男性のみのサロンで男の料理教室、竹細工、植物園の見学など体を動かす活動等が多い。

②さくらサロン（H18年～）

小物作りやお菓子作り等を元気な高齢者が集まって活動する。

③公民館の日サロン（H19年～）

身体的に不自由な方があやとりや鹿児島弁かるたなどの遊びをしながら交流する。

④オレンジろばさんサロン（H27年～）

認知症の方と御家族の方が集まって、茶話会や年2回医師への相談ができる。

また、町内会主催で「私の作品展」を開催し、生涯学習やサロン活動の発表の場を設けるなど、活動の充実や継続につながるよう創意工夫を重ねている。

見守り活動は、独り暮らし高齢者等の孤独死や事故等を未然に防ぐため、「打馬あんしん安全見守り隊」を発足。地域住民の支え合いによる見守り、声かけ活動やちょっとした困りごとへの生活支援を行っている。また、「見守り推進会」を開催し、対象者の見直し、組み合わせの調整、方向性確認など、実際に活動した事例の振り返り、救急時の体制整備、鹿屋市社会福祉協議会や地域包括支援センターによる助言・情報提供を行っている。

○取組・事業の成果

サロン活動は、男性参加者が、保健センターで実施している料理教室に参加するようになる等、積極的に外に出る活動が見られるようになった。また、参加者として参加するだけでなく、講師役として教える側になることで、生きがいや役割の創出につながっている。

見守り活動では、地道な見守り活動により、最初は、訪問しても戸を開けてくれなかった高齢者が戸を開けて話ができるようになった。また、高齢者徘徊模擬訓練を実施することで、早期発見や認知症の方への対応について理解を深めるとともに、地域見守り体制のさらなる充実の必要性について再認識できた。

全体として、サロン活動や見守り活動を継続して行うことで、地域住民が主体的に介護予防や地域支え合いの活動に取り組んでいく機運が醸成され、なんでもサービスに頼るのではなく、いかに地域住民で支え合い、住み続けられるかの意識改革を行うことができた。それぞれの活動を充実させ、継続させていくかの創意工夫を住民が主体的に実行している。

○活動の様子



どんぐり(H17～)



さくら(H18～)

公民館の日(H19～)

オレンジろぼさん(H27～)

